

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

愛媛県大洲市

#### ○学校名

大洲市立栗津小学校

#### ○学校のURL

<http://awazu-e.esnet.ed.jp>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 6 学級 【特別支援学級】 1 学級 【合計】 7 学級

#### ○児童生徒数

【全児童数】 88 人（平成25年5月1日現在）  
（内訳：1年生17人、2年生12人、3年生14人、4年生13人  
5年生12人、6年生20人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

「ふるさとを愛し、あかるくやさしくたくましい栗津の子を育てる」

##### 【人権教育に関する目標】

（目標）自分も友達も大切にし、自他の人権を守るために主体的に行動する子ども  
の育成 ～気づき・考え・行動する子～

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

本校の児童は、素直で、明るく活動的である反面、基本的な生活習慣の定着が十分とは言えず、人間関係の固定化・序列化、伝え合う力が弱い面も見られる。また、アンケート調査などの結果から、自尊感情があまり高くない傾向にあることが分かった。

そこで、次の三つの研究の仮説を設定し、具体的な取組を行うことにした。

- (1) 人権・同和教育の視点を意識した授業構成を工夫し、様々な体験を積み重ねることにより、自他の人権の大切さに「気づき・考える」子供が育つであろう。
- (2) 一人一人が大切にされる環境づくりに努めるとともに、互いの思いやよさを認め合う活動を継続することによって、自尊感情が高まり、主体的に「行動する」子供が育つであろう。
- (3) 地域を知り、地域の人と積極的に交流することによって、この地に生きる自分に自信をもち、自他を大切にしながら、共に生きていこうとする子供が育つであろう。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### (1) 人権が尊重される学習の推進

##### ア 人権・同和教育年間指導計画の改善

まず、本校の実態を把握するために、児童と保護者対象にアンケートを行った。また、全ての教育活動において人権・同和教育に取り組むため、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の内容を盛り込むとともに、学校行事との関連についても見直しを行い、人権・同和教育の年間計画を作成した。その際には、五つの視点（生命、人権、仲間、地域、勤労）を設定し、単元や教材を選定した。

視点	人権・同和教育で育てたい意欲や態度
生命	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切にしようとする意欲や態度
人権	全ての人が同じようにもっている、かけがえのない人間として平等に生きる権利について知り、自他の人権を大切にしようとする意欲や態度
仲間	互いの意見を交流する中で学び合い、相手のことを思いやって行動しようとする意欲や態度
地域	地域の人と積極的に関わる中で、地域に生きる自分に自信をもち、郷土を愛しよりよくしようとする意欲や態度
勤労	みんなのために働くことの尊さを知り、自分ができることを考え、行動しようとする意欲や態度



第1学年生活科の学習

##### イ 人権意識を高める授業改善

###### ○ 生命尊重の授業

地域の獣医師をゲストティーチャーとして招き、直接話をしていただくなど、児童がかけがえのない生命を尊び、感動をもって理解できるように授業構成を工夫した。

###### ○ 人権の歴史や現状を学ぶ授業

人権に関する歴史を学び、正義の実現に向かって活動しようとする意欲や態度を育てるための学習を行った。主

に6年生において行い、社会科、総合的な学習の時間、道徳、学級活動で多面的に学び、人権についての知的理解を深めた。6年生では、汚染一揆を取り上げ、差別解消に向けて立ち上がった人々の思いに触れる授業を行った。

###### ○ 地域の人々と積極的に関わる授業

校外学習を積極的に取り入れるとともに、地域の方を学校にお招きして、直接御指導いただく機会を増やし、自分たちの地域の自然や文化等を体験的に学んでいる。特に、総合的な学習の時間では、地域に受け継がれている和

太鼓演奏を体験したり、地域の福祉施設と交流したりする中で、地域に貢献しようとする気持ちを育むことができた。

ウ 伝え合う力を伸ばすための取組

○ ボランティアグループによる読み聞かせ

地域の読み聞かせボランティアの方々に、学期に2～3回、テーマを設定して、発達段階に応じた本の読み聞かせをしていただいている。様々なジャンルの本を読んでいただくので、読書の幅を広げるきっかけとなっている。児童は、自分たちのために準備し、来てくださることに感謝の気持ちを持ち、「また来てほしい」と次回を心待ちにしている。

○ 言語環境の整備

「話す・聞く」力を育てるために、教室の前面に「聞き名人・話し名人」を掲示している。また、朝の会では、学年ごとにテーマを決めて輪番でスピーチをし、発表後には、感想発表や教師の講評を行っている。講評の中で、発表した児童や聞いていた児童のよいところをほめることにより、児童は自信をもって発表するようになった。また、自分の考えを伝えるための語彙が広がっていくように、「使えるようにしたい言葉カード」を上・下学年と発達段階に応じて作成し、児童一人一人に配布して活用している。

苦しい	つらい	さんねん	あきれる	ふまん	おもしろい	なつかしい	気持ちいい	気分がいい	ゆかい	うれしい・楽しい
		くやしい	つまらない	ほつとする	ほつとする	かつとなる	頭にくる	はらだたしい	はらが立つ	おこる
		安心	ほつとする	きんちようする			さみしい	むねがいたむ	かなしい	かなしい
		落ち着かない	あせる					てれる	てれくさい	
感しやる	感心する	わすれられない	感げきする	感動する			はずかしい			はずかしい
不安	こわい	まよう	心細い	どきどきする・ふあんになる	まちどおしい	まんぞく	すき	うらやましい	きようみをもつ	すき・このむ

☆ 気もちをあらわすことば



使えるようにしたい言葉カード・下学年

(2) 伝え合い認め合う仲間づくり

ア 「気づき・考え・実行する」青少年赤十字活動の充実

本校では、毎月一週間をJRC週間とし、あいさつ運動や募金活動を行っている。しかし、教師も児童もこれまでの活動を踏襲するだけになっていたため、活動のねらいを教職員間で再確認した。そして、日常生活の中での実践活動を通して、「やさしさ」や「思いやり」の心を育てることを目的とし、自主的で自立した生活態度を養うために、「気づき・考え・実行する」という三つの態度目標を掲げて、児童の活動を進めていくことにした。

また、児童からは、全校奉仕活動や全校遊び、保健委員会の活動などをしてほしいという意見が出てきた。それらの意見をもとに、業間を設定するなどして活動時間を確保したり、掲示物を工夫したりした。

【JRC週間の活動について】

曜日	内容	児童の活動	業間
月	あいさつの日	あいさつ運動【月～金】 (担当：あいさつ当番)	学力アップ (国語)
火	奉仕の日	アルミ缶回収【火・水】 (回収：児童会)	全校奉仕
水	健康の日	フッ素洗口 ↓ 放送 (担当：保健委員会)	体力アップ
木	なかよしの日	なかよし遊び 交流給食	全校なかよし遊び
金	1円玉募金の日	↓ 募金活動 (担当：児童会)	学力アップ (算数)
土	体験の日	体験活動	
日	お手伝いの日	お手伝い日記	

イ 互いを認め合う集会活動

○ なかよし集会

集会のはじめに、「今月の歌」や「今月の詩」を、全校で声を合わせて歌ったり朗読したりする。歌や詩は、日本の四季を感じられるもの、児童の心に響くものを選んでいく。朝の会でも、各教室から歌や朗読の音が聞こえ、毎朝、みんなが同じ歌や詩を読むことで、気持ちをひとつにすることができている。また、毎月、校長先生に「今月の詩」の暗唱を聞いてもらうことで、児童は意欲や自信をもって取り組んでいる。

月	今月の詩		今月の歌
5月	おがわのはる	あおと かいち	茶つみ
6月	雨のうた	鶴見 正夫	野に咲く花のように
7月	われは草なり	高見 順	夏は来ぬ
9月	よういどん	杉本深由起	うんどうかいのうた
10月	手	小池 知子	もみじ
11月	こだまでしょうか	金子みすゞ	ともだちになるために
12月	出逢い	関 洋子	風も雪もともだちだ
1月	えと	みしま けいこ	一月一日
2月	はしる しるしる	まど・みちお	ふるさと
3月	一所懸命	東井 義男	旅立ちの日に

○ ありがとう集会

日頃お世話になっている地域の方々や指導者の方々に感謝の気持ちを表すため、「ありがとう集会」を行った。児童は、心を込めて招待状や感謝状、出し物、プレゼント等を用意した。出し物の準備をしていた児童の中には、「走るゲームはやめよう」「こんなクイズが喜んでもらえるかな」といった



ように、招待者の年齢を考えた言動も見られた。招待者の方々にも喜んでいただき、お互いの気持ちが通じ合う、とてもよい集会となった。

### (3) 家庭・地域との連携

#### ○ 寿会との交流

1・2年生は、寿会の方に昔の遊びを教えていただいた。昔のおもちやおもしろありがとう集会さや手作りのよさに気付き、人と関わり親しみを深めることを目的として、生活科の時間に昔の遊びにチャレンジした。グループごとに、昔の遊びコーナー（はねつき、こま回し、竹とんぼ、竹馬、めんこ、お手玉）を回り、一生懸命チャレンジできたらシールを貼ってもらう。児童は、寿会の方とコミュニケーションをとりながら昔の遊びを楽しみ、活動後、感想発表や歌のプレゼントをしたり、感謝の気持ちを込めてお礼のあいさつをしたりした。

また、寿会の方には、運動会にも来ていただき、児童と一緒に大玉ころがしに参加していただくなど、交流を続けている。

#### ○ 赤十字奉仕団の方々との交流



手つなぎボランティア

JRC活動の一環として、毎年「手つなぎボランティア」を実施している。異年齢集団（あいグループ）に分かれて、地域の赤十字奉仕団の方々と一緒に八多喜の町を掃除している。1時間程度の奉仕作業だが、ごみ拾いや草ひきなどをしていると、あっという間に時間が過ぎていった。終わりの会の感想発表では子供たちの充実した思いをたくさん聞くことができた。また、地域をもっときれいにするために、自分たちにできることはな

いかという思いから、代表委員会で話し合いを行った。「ごみ箱を置いたらいい」「ごみが落ちていたら拾う」「ごみを落とさないように気を付ける」など、たくさんの意見が出た。その中で、「ポスターを作って呼びかける」という提案があり、みんなでポスターを作って、駅前や公園などに掲示した。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

### 【取組の成果】

#### ○ 人権が尊重される学習の推進

人権が尊重される手立てを意識した授業を展開することで、一人一人の活躍の場面が確保され、児童は、充実感や達成感を味わい、大切にされていると感じるようになってきた。また、道徳や学級活動などで役割演技を取り入れることにより、他者の気持ちに気付いたり、同じ場面でも人によって感じ方が違うことに気付いたりすることができるようになってきた。そして、人権に関する歴史や差別

の現実を様々な場面で学ぶことにより、人権の問題を自分のこととして考える児童が増えてきた。

○ 伝え合い認め合う仲間づくり

	H24年	H25年
1年	3.42	3.71
2年	3.55	3.36
3年	3.15	3.40
4年	3.21	3.24
5年	2.85	3.27
6年	2.90	2.80

【自尊感情の調査結果】

活動を行う中で、異学年との関わりが増え、様々な場面で気遣いや思いやりの心をもった言動が見られるようになった。その結果、学年を超えて互いのよさを積極的に認め合うことができるようになってきている。また、学年に応じて、みんなのために自分ができることを実践しようという態度も育ってきている。

左記のH24年度とH25年度の自尊感情アンケートの結果から、わずかではあるが、自尊感情が高くなっていることが分かる。

○ 家庭・地域との連携

協力してくださる地域の方が増え、児童と直接関わっていただく機会も多くなったことで、児童は、地域行事への関心を高め、触れ合いを大切にし、地域の一員として共に活動に取り組むようになった。

## 5. 実践事例についての評価

○ 保護者や地域住民からの反応

学校評価アンケートにおいても、学校関係者評価委員の方より「いろいろな行事で、児童が生き生きと活動しているか」や「児童は、地域の一員として役に立っているか」等の質問に100%肯定的な回答を頂いた。また、学校関係者評価委員会でも「学校に来やすくなった」「子供たちが地域の行事に参加する態度がとてもよい」という意見を頂いた。

【寿会の方の感想】

隣で子どもがとても楽しそうに走っていたので、一緒に走っていてうれしくなりました。思った以上にとても楽しく、いい思い出になりました。こんな機会をいただいて本当にありがたく思っています。

○ 今後の課題

自他の人権の大切さに「気付き・考える」子供の育成に努めてきたが、まだ十分とは言えない。さらに、児童の人権意識を高める活動を考えていきたい。

自分の気持ちを表現しようとする意欲は育ってきているものの、全体の場で大きな声で発表したり、生き生きと伝えたりするまでには至っていない。今後も、意識して互いの思いやよさを認め合う活動を継続し、児童が自信をもって伝え合うことができるように支援していきたい。

児童自身から地域へ発信しようという意識が芽生えてきたが、まだ十分な取組に至っていない。これからその芽を大切にし、育てていきたい。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 大洲市立粟津小学校

本事例の特徴は、人権・同和教育という概念を基本に、3つの仮説をもって研究に取り組んできた点にある。学校として研究を進める際、このように仮説を立て、それを意識しながら実践を重ねることは重要である。3つの仮説の下、生命を尊重する授業、人権の歴史や現状を学ぶ授業、地域の人々と積極的に関わる授業などを大切にしている。具体的には、たとえば青少年赤十字活動を学校内外で展開し、現実の問題と向き合いながら学習を深めている。青少年赤十字活動には、「気づき・考え・実行する」という、人権教育に不可欠の要素が十全に位置付いている。随所に、参加的・体験的・協力的な学習活動が位置付いており、この点は、たとえ焦点を当てるテーマや重点を置く人権課題が違ったとしても、同様に活かすことができるはずである。